

◎ 診療科名： ホスピス実習

◎ 責任者氏名： 篠原 尚 臨床教育統括センター長

◎ 指導教員氏名：

卒後臨床研修センター

平野 公通 教授

臨床教育統括センター

柏 薫里 講師、山口 円 兼任教員、湯浅 真裕美 兼任教員

医学部

高橋 友子 非常勤講師

◎ 実習概要

エンド・オブ・ライフ期にある患者さん、ご家族と接し、生と死について考え、学生間での意見を共有することで緩和ケア病棟における患者さん、ご家族の理解を深めることを目指す。

◎ 各診療科における到達すべき学修成果（アウトカム）

（臨床実習の授業概要「到達目標（アウトカム）」に準拠する）

- ・緩和ケアの概念と基本的知識を理解することができる。
- ・患者さん、ご家族の痛み、苦しみ、悩みを含め、患者、家族の思いを受容、傾聴、共感できる姿勢をもつことができ、医療人として適切なコミュニケーションをとることができる。
- ・患者さん、ご家族の思いから学んだことを表出し、ディスカッションすることができる。

◎ 準備学修ならびに事後学修に要する時間

- ・緩和ケアの概念と基本知識を予習しておくこと（2 時間）
- ・コミュニケーション技術を復習しておくこと（2 時間）

◎ 評価方法

（態度について A、B で評価。評価基準をループリックで明示）。

緩和ケア病棟という環境を理解し、患者さんおよびご家族の想いを受け止める。
そのために以下に基づき態度面を評価する。

	A	B
態度	適切な言葉遣いや礼儀正しい態度で患者、家族に接することができる。	適切な言葉遣い、身だしなみなどの態度で患者、家族に接することができていない。

◎ パフォーマンス評価

実施しない

◎ 中間評価とフィードバック

実施しない。

◎ 注意事項

<日程、集合時間および場所>

- ・日程、集合時間等は別途通知する。
- ・実習施設までの交通手段で自家用車を使用した際のトラブルは責任を持たない。

＜持参物・身だしなみ＞

- 名札着用（必須）
- 服装については実習施設の取り決めを確認し、遵守すること。
 - ※ ケーシー型着衣の場合は、しわや汚れがないこと。
 - ※ 私服が許可されている場合は、「常識の範囲内」で「清楚」であること。
ビジネスカジュアルを参考にすること。
- 実習にご協力いただく患者さんやご家族だけでなく、実習を受け入れていただいた施設職員にも不快感を与えない服装を心がけること。
 - ※ 男性は無地または襟付きのシャツを着用すること。
 - ※ 女性は無地のブラウスまたはシャツを着用すること。
 - ※ デニム素材、スウェット、ショートパンツ等は禁止。

＜実習時の留意事項＞

- 死期のせまった患者さんであるため、言動には細心の注意を払うこと。
ご家族に対しても同様である。
- 患者さんが精神的に不安定、医療に対する不満、死への恐怖などを訴えられる場合もあり得るが、医療者として受け止めること。
- 患者さん、ご家族との口論、トラブルは厳禁である。
- お話しいただいた内容は当日のグループディスカッション以外では口外せず、守秘義務は厳格に守ること。
- 身だしなみに注意すること。特に、化粧品などのにおいに敏感になっている患者さんもいらっしゃるため、過度な香りのする物は使用しないこと。
- 忘れ物（名札）、身だしなみ不良、態度不良、遅刻、無断欠席は実習中止とする。
- 患者さんの状態によっては、実習ができない場合もある。